

平成26年度 殿村遺跡第6次発掘報告 平成27年3月21日 松本市教育委員会

はじめに

1 これまでの発掘調査成果

- (1) 殿村遺跡第1次調査とその後
- (2) 虚空蔵山城跡の調査

2 殿村遺跡第6次発掘調査成果

- (1) 今回の調査目的
- (2) 6D1・2トレンチの発掘結果
- (3) 6A1トレンチの発掘結果

3 まとめ

- (1) 広い範囲に同じような大規模造成跡が広がっていた
- (2) 平場を造る技術が確立されていたー石積み、盛土…
- (3) 虚空蔵山城跡にも同じような造成跡がある
- (4) 発掘結果から見えてくる殿村遺跡のイメージ

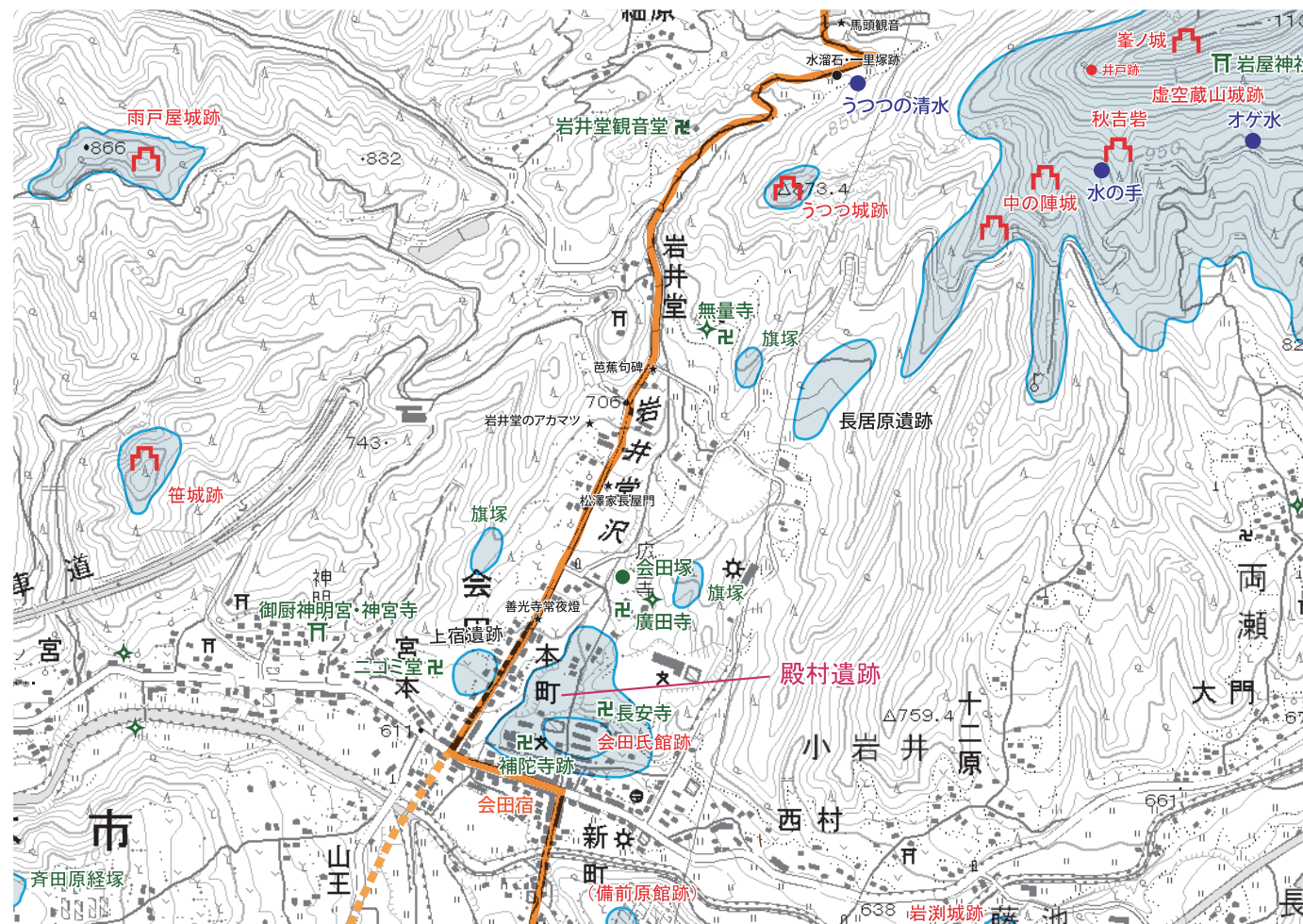


殿村遺跡の石積(5A1)の石積みと出土遺物

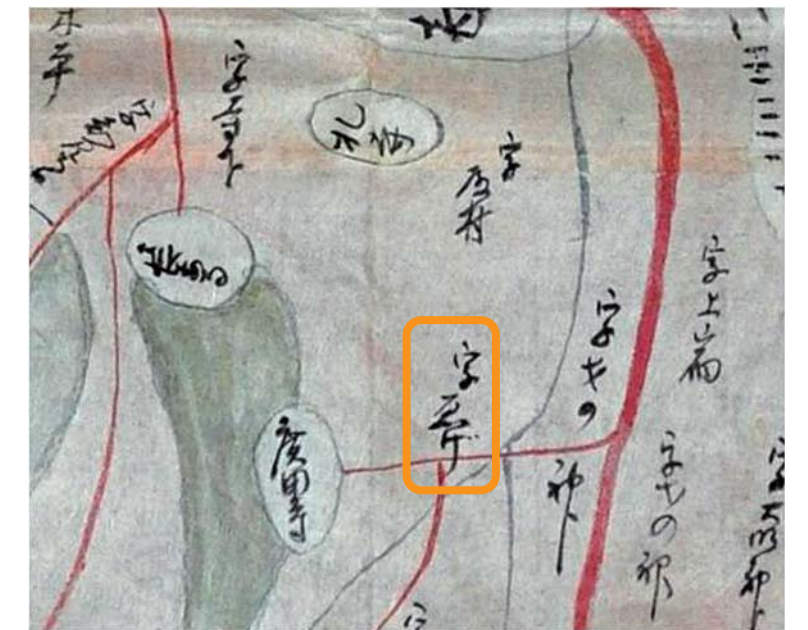
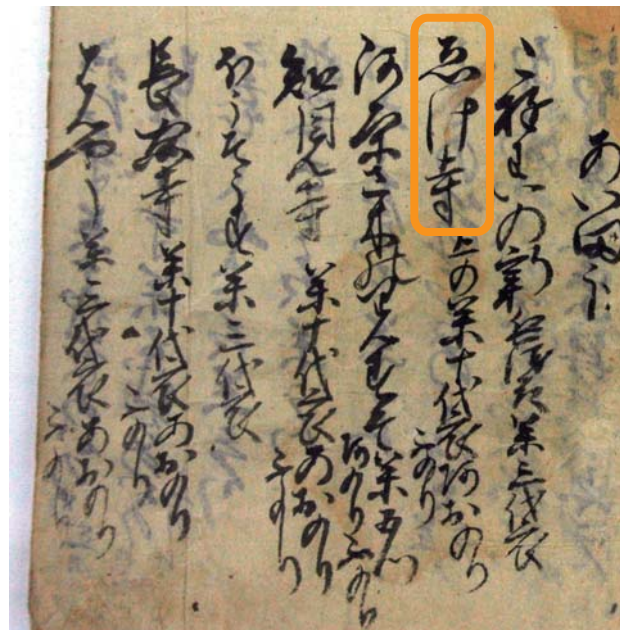


虚空蔵山城跡の礎石建物跡と石積み

平成25年度の発掘(殿村遺跡5次調査と虚空蔵山城跡3次調査)



殿村遺跡と虚空蔵山麓の中世の遺跡・文化財



天正9年『お祓い配り日記』(左)と近世の絵図(右)に見える「系げ」

廣田寺

6D1トレンチ (H26)

字系げ

ここは平場の跡がなかった。
鍋のかけらが入った柱穴が一つだけ...



柵・土坑など中世の遺構



内耳鍋の破片が出土した柱穴



穴だらけ。みんな
柱穴や貯蔵用の穴らしい。



1次調査区の遺構群



これが今回新しく
見つかった平場跡。

中世の造成跡



中世の土塁

殿村遺跡これまでの発掘地点と平場跡



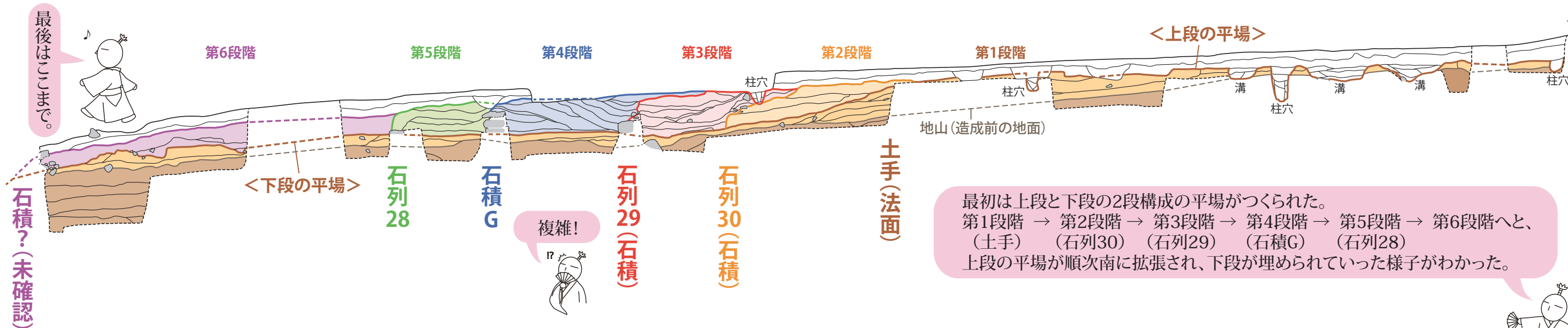
2C1トレンチの造成跡

0 10 20 30 40 50m

...平場跡の範囲

南

北



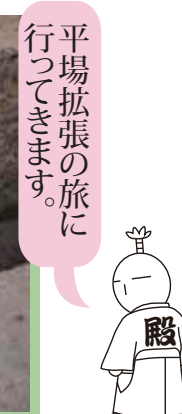
石積みと石列



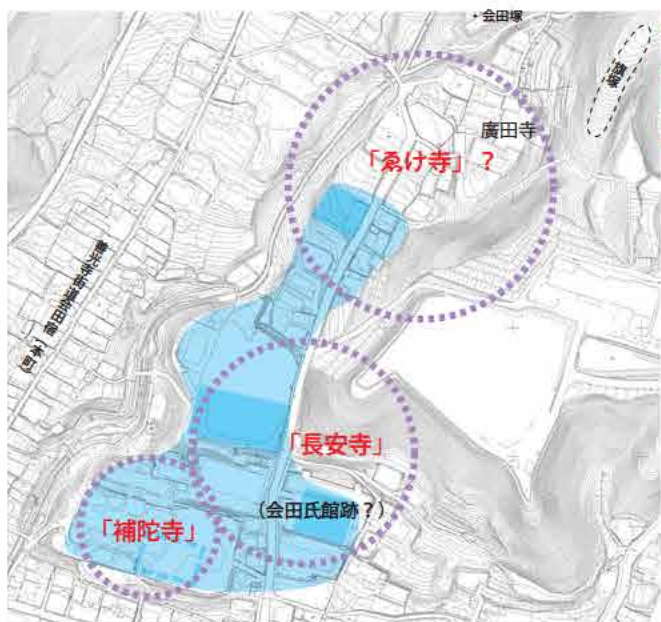
石積Gと盛土の様子



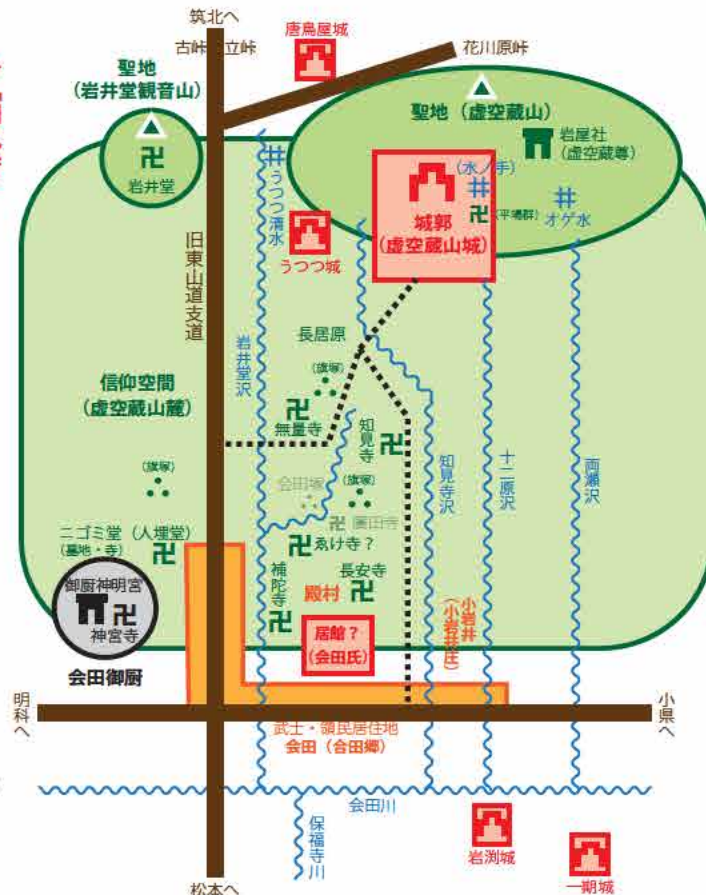
石列29と盛土の様子



殿村遺跡6D2トレンチとその構造

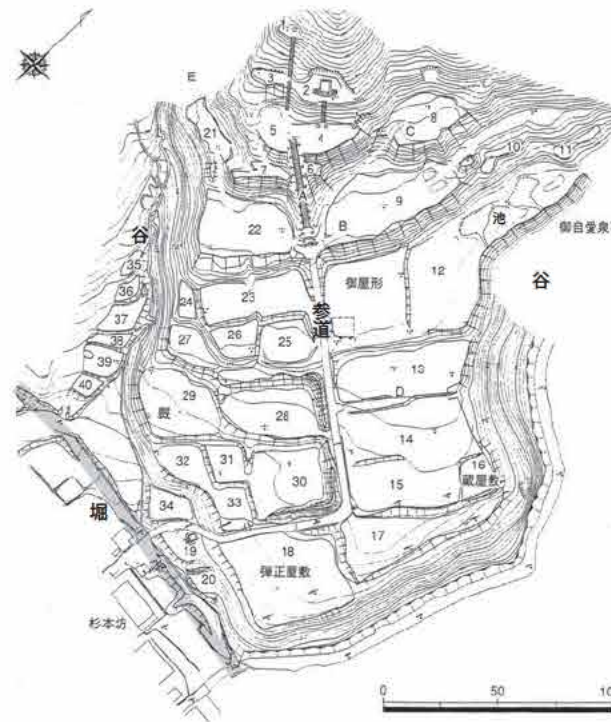
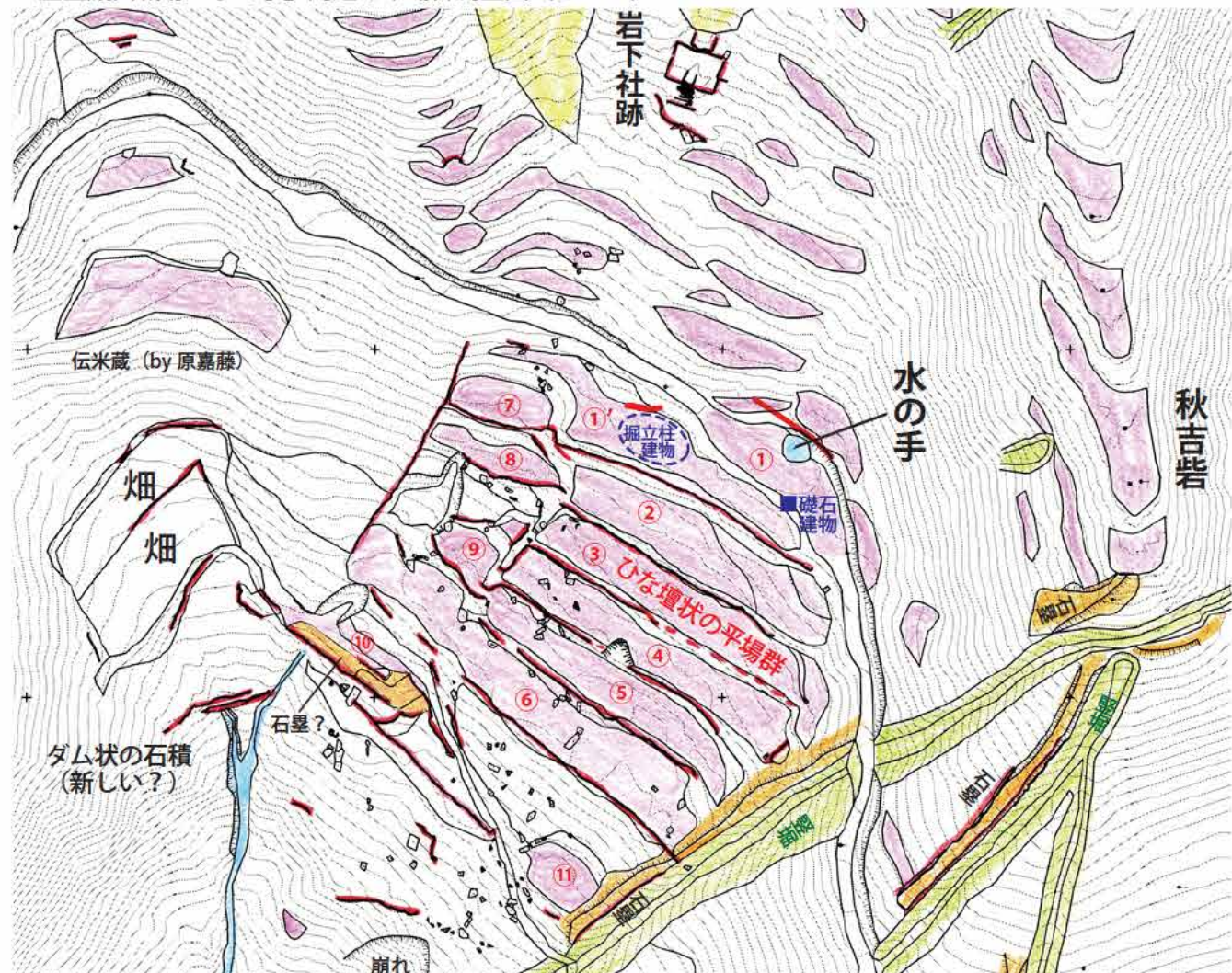


『天正9年お祓い配り日記』に登場する寺と殿村遺跡
 濃い水色：平場跡が確認された地点 (H26 現在)
 薄い水色：平場跡または中世遺構の分布推定範囲 (H26 現在)
 紫色破線と赤字：お祓い配り日記に登場する寺と推定位置



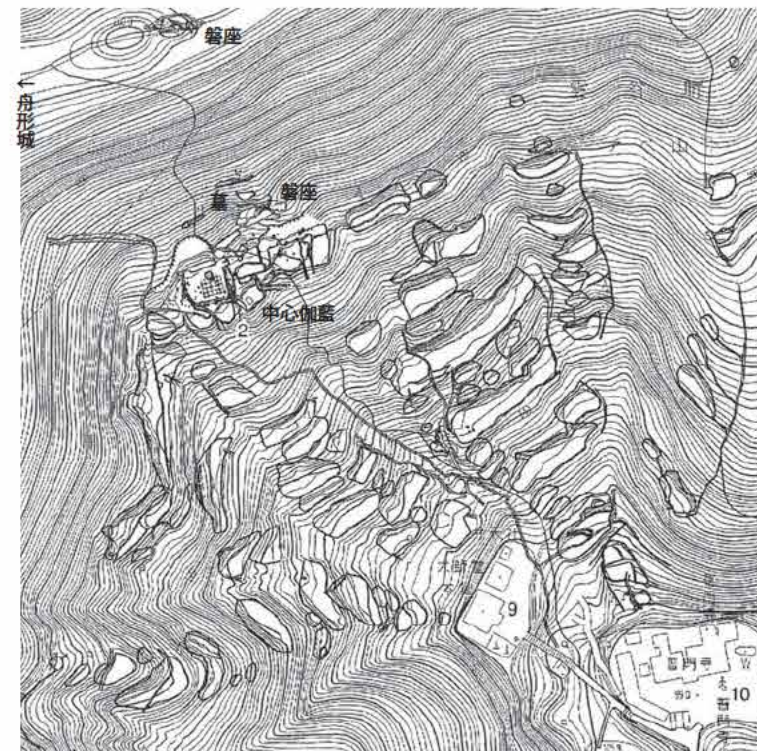
中世における虚空蔵山麓のイメージ

虚空蔵山城跡「水の手」周辺の平場群測量図 (1/1000)



滋賀県米原市京極氏館跡 (寺院→館)

伊吹山南麓にある。両側を谷にはさまれた尾根先に方形の平場が整然といくつもつくられる。中央に直線参道があり、その両側に坊が、突き当りの最上段に中心となる堂 (伽藍) が置かれたと考えられる。
 後に京極氏の館として改修され、伊吹山中腹の上平寺城、弥高寺とともに京極氏遺跡として国史跡となっている。



愛知県豊橋市普門寺旧境内

谷あいの急斜面に坊跡の平場が何段もつくられる。最上段には礎石建ちの本堂や庭池を備えた中心的な伽藍が置かれる。平場が地形に沿った形で細長く作られている点に特徴がみられる。
 中心となる平場の背後には墓や経塚が、また尾根頂上には磐座や山城 (舟形城) があり、城郭と聖地、寺院が一体となって存在している。

多数の平場跡が集まる中世の山の寺・石積を多用する寺



福井県白山平泉寺僧坊跡
 側溝のある石畳道と石積で縁どられた平場跡



広島県万徳院跡
 平場の前面に石積を構えた吉川氏の菩提寺